

経営比較分析表（令和4年度決算）

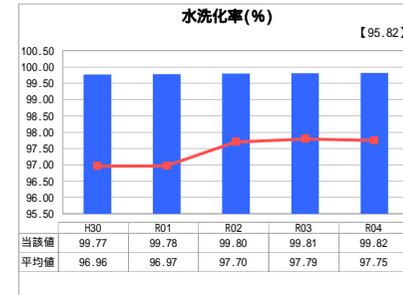
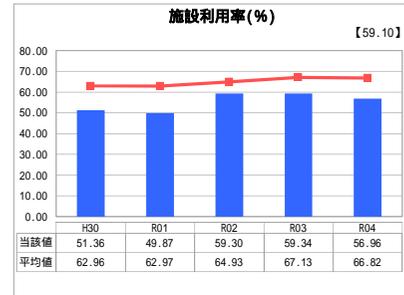
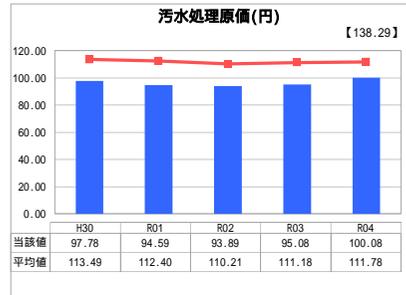
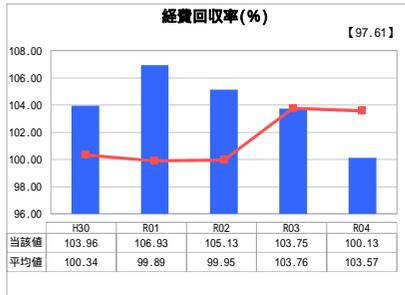
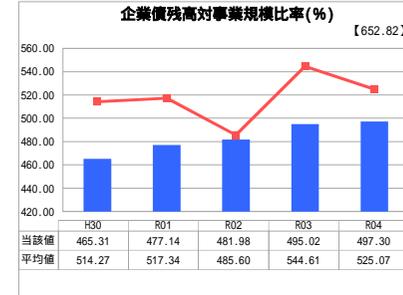
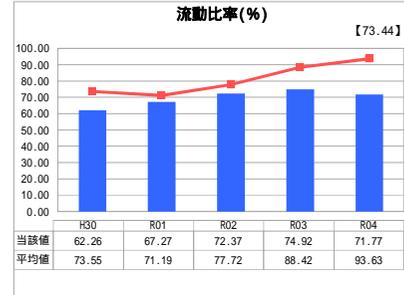
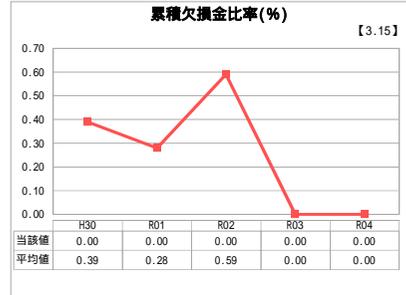
兵庫県 西宮市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ab	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	69.62	99.94	91.28	1,777

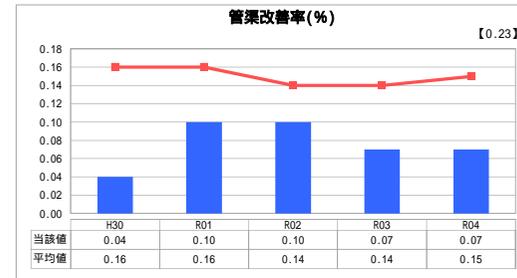
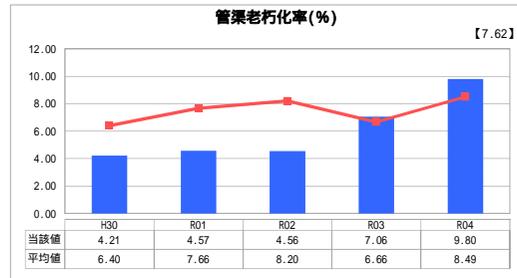
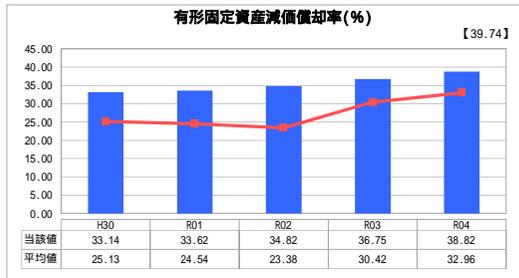
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
482,796	99.96	4,829.89
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
481,954	48.25	9,988.68

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平均値と比較し、汚水処理原価は低くなっているが、令和2年度より基準外の一般会計繰入金を削減したため、経常収支比率は低下している。また、物価高騰等の影響を受け、経常収支比率及び経費回収率は100%を上回っているものの低下傾向にある。企業価値高対事業規模比率は平均的であるが、今後使用料収入の減少が考えられることから、注意が必要である。

水洗化率は高く、適正に使用料収入を得られる環境にある。節水機器の普及や大規模事業場の撤退等の影響もあり、施設利用率は平均値を下回っているが、合流式区域を有することから、雨水時の流入水量増加に対応できるよう一定の余力を有している必要がある。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超える管渠は、今後ますます増加傾向となる。これまでは厳しい財政状況の中、適正な維持管理により施設の延命化を図ってきた。しかし、今後は一時期に整備を行った管渠が一旦に法定耐用年数を超える時期を迎えることから、ストックマネジメント計画に基づき、改築更新事業費を段階的に増やしている。

全体総括

普及率はほぼ100%となったが、今後も老朽化対策、処理場の再構築・統廃合、浸水対策と多くの事業を進める必要がある。

経営状況については、企業価値のピークが過ぎ、今後は流動比率が改善されることが見込まれるが、物価高騰等の影響を受け、経常収支比率及び経費回収率は低下傾向にあり、人口減少等による使用料収入の減少傾向も踏まえ、今後適正な使用料体系の検討が必要となってきている。

また、法定耐用年数を超える管渠は今後ますます増加傾向となり、令和20年頃にピークを迎える予定である。ストックマネジメント計画に基づく点検・調査を進めており、今後必要となる改築については、限られた事業費の中で、計画的に対応していく。

「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。